

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	04-01-01-16
事務事業名	猟政事業	根拠法令・要綱等	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律
事業開始年度	昭和46年度以前	問合せ先	担当課(室) 農林水産課 職・氏名 管理係長・大道健一 電話 64-1831
総合計画	大項目 基本目標	もてなしの心とたくましさのあるまちづくり	
	中項目 基本施策	豊かな食を支えるまちづくり	
	小項目 施策	農業	

事業の実施	
対象 (誰・何に対して)	備前市内で農作物等を栽培している農家及びすべての人。
目的 (何のために)	鳥獣による農林水産及び人畜に被害のある場合に駆除する。
行政活動 (どのような方法で)	地元要望により、駆除班に依頼。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	獣害のないまちづくり。

事業の実績						
活動実績	実施項目		単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	鳥獣捕獲許可件数	頭・羽		3,141	3,261	3,102
	鳥獣捕獲数	頭・羽		897	832	490
	直接事業費	千円		2,061	2,398	1,971
	人件費	千円		3,519	3,754	1,958
	事業費計			5,580	6,152	3,929
	国県支出金			311	370	346
	受益者負担	千円		6	7	7
	一般財源			5,263	5,775	3,576
	必要人員	人		0.44	0.47	0.23
結果指標	結果指標名		単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	鳥獣捕獲許可件数	説明		3,141	3,261	3,102
	結果指標量	頭・羽		3,141	3,261	3,102
	対前年比	%		-	103.8%	95.1%
	活動コスト	円		7,191,000	6,152,000	3,929,000
	単位当たりコスト	円		2,289	1,886	1,266
結果指標	鳥獣捕獲数	説明		897	832	490
	結果指標量	頭・羽		897	832	490
	対前年比	%		-	92.8%	58.9%
	活動コスト	円		7,191,000	6,152,000	3,929,000
	単位当たりコスト	円		8,017	7,394	8,018

事業の成果			
成果指標名	捕獲数が成果と考える。	式又は説明	鳥獣捕獲数 / 鳥獣捕獲許可数
成果指標量	17年度 897	18年度 832	19年度 490
対前年比		92.75%	58.89%
到達目標値	100	到達目標年度	毎年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成19年度事業)			
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	妥当性評価<A-E>	C		
	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している	課題認識			
対象	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある	農作物の被害が市内全域であり、要望件数が増えているため、必要な事業である。			
	行政活動			<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない	
事業の意図する成果	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない				
市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である				
市の関与	<input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である				
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である				
効率性の評価	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい			効率性評価<A-E>	C
	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい <input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難 <input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある			課題認識	
職	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない			年により被害にばらつきがあり、鳥獣捕獲許可件数、鳥獣捕獲数が大きく変化する。	
	<input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある				
目的達成度	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている				
	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている <input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい				
有効性の評価	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである	有効性評価<A-E>	C		
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	課題認識			
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである	鳥獣の捕獲と駆除の両面から考えないといけないので、目標値を100にすることはできない。駆除することで農作物の被害が減少すれば目標を達成したと考える。			
	<input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある				
<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している					
<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している					
<input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している					
<input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている					

平成20年度の状況		説明	有害鳥獣により被害があるため、引き続き事業実施する。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している		
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量 3,300	結果指標量	700
成果指標量	100.00		

総合評価		評価区分 <A-E>	C
年度により有害鳥獣の捕獲率にばらつきがあるが、野生動物が対象になるのでやむを得ない部分もある。農作物・人的被害が少しでも減少し、駆除依頼件数が減少すればよいと判断する。			

平成21年度以降の方向性		説明	平成20年度で廃止・完了
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する		
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する		
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する		

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果